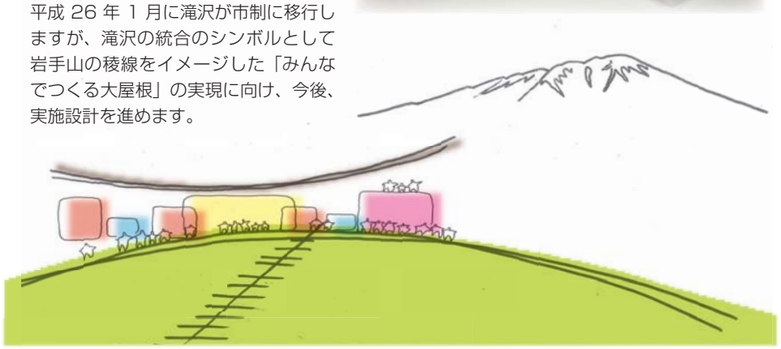
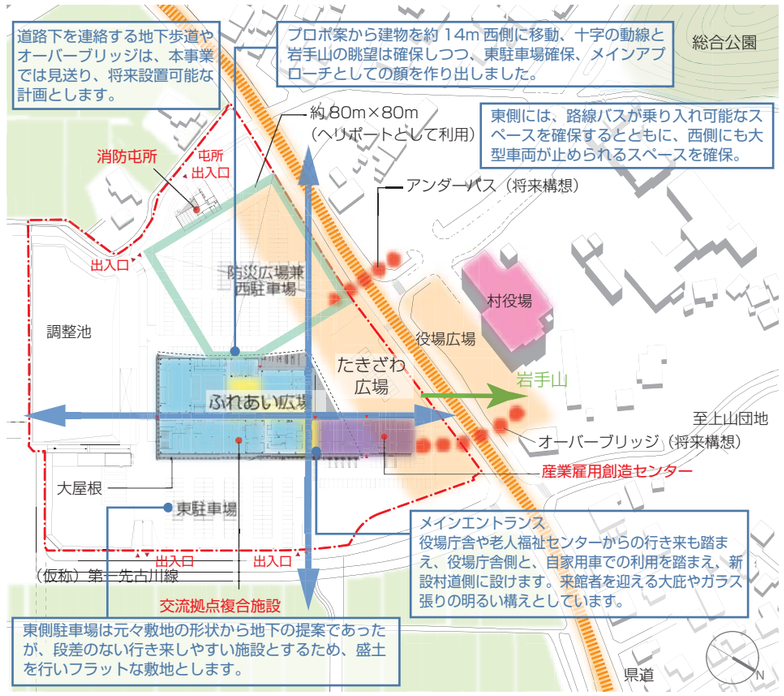
## みんなでつくるふれあいの大屋根

平成 24 年夏、「滝沢村交流拠点複合施設等設計業務プロポーザル」にて選定された案を基に、建設推進委員会、建設推進プロジェクトチーム会議、全体ワークショップ、個別部会などでの議論を重ね、皆さんの意見を極力取り入れ、今回基本設計（案）としてとりまとめました。
平成 26 年 1 月に滝沢が市制に移行しますが、滝沢の統合のシンボルとして岩手山の稜線をイメージした「みんなでつくる大屋根」の実現に向け、今後、実施設計を進めます。



## あたらしい交流のカタチを目指した「まちなみ」形成の実現

- 敷地内には周辺村民の日常動線である小道が南北東西に通ってますが、それを十字の動線として室内に取り込み、どこからでも気軽に入れる施設とします。
- 動線にそって各施設をまちなみのように配置することで、住民の交流が生まれ、深まります。
- さらに、南北の軸線上には、みんなの活動を見守るかのように秀峰「岩手山」を眺望することができます。
- 本施設には、交通量の多い県道からの直接出入りを避け、新しく整備される交差点（右折レーン付）、新設村道を経由して安全に出入りできる車両動線としています。




**たきざわ広場**：
村役場前の広場と一体的にとらえ、「市」の中央広場として整備します。
産業雇用創造センター、複合施設がたきざわ広場に直接面していることで、各種イベント時にはたきざわの魅力を十分に堪能できる計画とします。
また、県内でも有数の交通量を誇る県道から多くの視線を受けながら、たきざわの魅力を十分に発信することができます。
うるおい空間を演出するため、一部緑地として整備します。

**滝沢総合公園との連携**：
交流拠点複合施設内の飲食やイベント機能と総合公園のレクリエーション機能や花と緑を連携し、家族や仲間で 1 日遊べる居心地のよい施設群とします。

**災害時も連携する「災害に強いまちづくり」**：
滝沢村役場、総合公園、交流拠点複合施設の３つの施設が相互に補完しながら多重に連携します。また、警察、自衛隊や医療等の活動支援機能と共に、高齢者や障がい者などの要援護者の避難場所等、住民の安全確保の為の複合的防災拠点機能を担います。施設内には住民連携による避難訓練や適切な避難方法などを展示等により周知するほか、消防・警察等と連携した防火・防災訓練で、住民に対し幅広く防火・防災の普及啓蒙を図る拠点とします。

**交流拠点複合施設エントランス**：
村役場や老人福祉センターからの距離を極力近い位置に配置します。メインエントランスは**総合公園側**と村道**（仮称）第一先古川線側**双方に設け、来館者を迎える構えとしてたきざわ広場に面し大庇を設置します。

**産業雇用創造センター**：
「たきざわ広場」に直接間口を面した配置とし、県道からの視認性を高め、村役場との連携や複合施設との連携に優れた配置とし、たきざわのアンテナショップとしての機能を担います。また屋上にはテラスを設け、周囲の山々や自然を感じながら景観を楽しむことや、テラスからイベントを鑑賞することができます。

**消防屯所**：主要交差点から離れた配置とし、緊急車両の出入を容易にします。防災広場と隣接させ、災害時の活動拠点とします。

## 大屋根のもとに集う　　村民のよりどころ（寄り拠）となる施設

- いつでもにぎわいあふれる施設となるよう、中心となる屋内「居間」空間「ふれあい広場」を岩手山を眺むとともに東西南北の中心（施設の中心）となる場所に配置しました。
- 「ふれあい広場」はガラス張の視認性が高い空間として、中でどのような活動がされているかを判りやすくし、いろいろな興味を引き立てるように計画しました。
- 施設の様々な機能が「ふれあい広場」に顔をだし、にぎわいの連続性が感じられる構成とし、見る見られるの関係をつくります。
- 大階段の設置、ハイサイドライトからの日だまり採光、景色のよい場をつくることで居心地のよい場所をつくります。
- 屋内空間は視線は通るもののゆるやかなゾーン分けを行い、若者にとってアクティビティとにぎわいあふれる施設、お年寄りにとって静かで長時間居られる施設、子育て世代にとって安心して子供を遊ばせることができる施設を目指します。

## 大屋根の下で演じる　　村民がワクワクする施設

- 県道に面し、ゲート広場「たきざわ広場」を設け、「滝沢」の中心広場として村役場前の広場空間と一体的に利用します。
- 「たきざわ広場」は活動しやすい舗装空間とうるおいのある緑地で構成し、運動や飲食、休憩など様々な活動が可能な計画とします。
- 「たきざわ広場」に隣接し 80m×80m の防災広場（協議により一部削ることを確認しました）を設け、日常は駐車場利用とし、チャグチャグ馬コや防災行事などのイベント時は会場として約 9000 ㎡の大空間を提供します。防災広場に面し大屋根の軒下が囲むように配置され、日かげや雨除けを提供します。

## 大屋根とともに暮らす　　環境にも自然にも優しい施設

- 大屋根の下に各諸室を配置し、夏や中間期は２階ハイサイドライトによる自然の風の導入により涼しい風の通り抜けを作り出します。また冬は２階ハイサイドライトによる日射エネルギーにより、太陽光を引き入れるハイサイドルーフアトリウムとします。あたたかな空気を循環させる空調システムにより省エネにも寄与します。
- 盛土材として、国土交通省で施行している復興支援道路（新川目トンネル）の残土を利用する計画とし、敷地内の段差解消要請を受け、バリアフリーに対応する計画としました。
- 県産木のムク材をメンテナンスにも配慮し、サインやエントランス等の効果的なポイントに絞って利用します。
- 建物のボリュームは大屋根の稜線により周囲の風景になじんだ景観にします。

## 大屋根にまもられた安心安全の施設　　村民をまもる施設

- 避難受け入れ拠点として、水、エネルギーの 72 時間自給を最低限確保します。
- 積雪時にも利用しやすい施設として、駐車場を施設の東西の至近距離に配置、大屋根下部を利用した通路を整備します。

## ふれあいを育てるしくみ

### 大ホール

・大ホールのホワイエ側の壁面と小ホールのホワイエ側の壁面を可動式の間仕切りとすることで一体的な利用ができるよう計画しました。
・このことにより、3つの空間を一体的に利用したイベントが可能となるほか、大ホールは1次会場、ホワイエ、小ホールは2次会場と壁の区切り方で色々な空間構成がつくられ、みんなの様々な活動に対応できるようになりました。
・大道具がスムーズに出入りできる搬入スペースを設置します。
・女子トイレは、できるだけ多く配置してほしいという声を受け、大きなイベント時には男子トイレを女子トイレとして利用できるように、小便器と区切れるよう工夫しています。
・その他ホールについては次項にも記載しています。

### 大会議室

・大会議室は一室で約 70 名利用でき、3分割により、各部屋 26 名程度の会議室としても利用できます。また、大ホールや小ホールの控室として利用することが可能なよう、それぞれの間に位置しており、一つの部屋が色々な用途に使えるようになりました。

### 小会議室

・近年ではサークル活動など少人数で活動している方も多く、施設の中でも利用率の高い部屋になると思われます。最も利用率の高い部屋だからこそ、みんなから注目され、施設全体が生き生きとした雰囲気になるよう、この位置になりました。
・小会議室 1・2 はミーティングやボランティア活動、サークル活動の控室として利用可能な計画としました。
・小会議室 3・4 は窓のついた部屋で防音性も高め、楽器演奏などのアクティブな活動がふれあい広場からも感じられるような計画としました。

### 図書館

・静と動を考え、動については、入口付近の少しざわついたコミュニケーションができる図書館として、静については空調・共用部でのイベントの騒音に配慮し、視認性の高いガラスの窓が入ったパーティションで間仕切る対応を行いました。
・児童コーナーはふれあい広場側に配置することで、寝ころんで絵本を楽しめるスペースを確保し、ふれあい広場や会議室等から子供達の活動をみんなで受けとることができます。また、図書事務室からも子供達の様子が伺える位置に児童コーナーを設けました。
・一方、読書に集中したい方は、にぎやかなふれあい広場から離れた奥の方に閲覧室を設け、明るい窓際でゆっくりと閲覧できるようにすると共に、本棚は日差しを避ける為、奥に配置しました。
・図書館の管理面の使い勝手から、本修理スペースや多目的室を設置することになりました。
・図書館への RFID（IC タグ）の導入による自動貸し出し機、IC ゲートによる効率的な図書館運用を検討中です。

### 小ホール

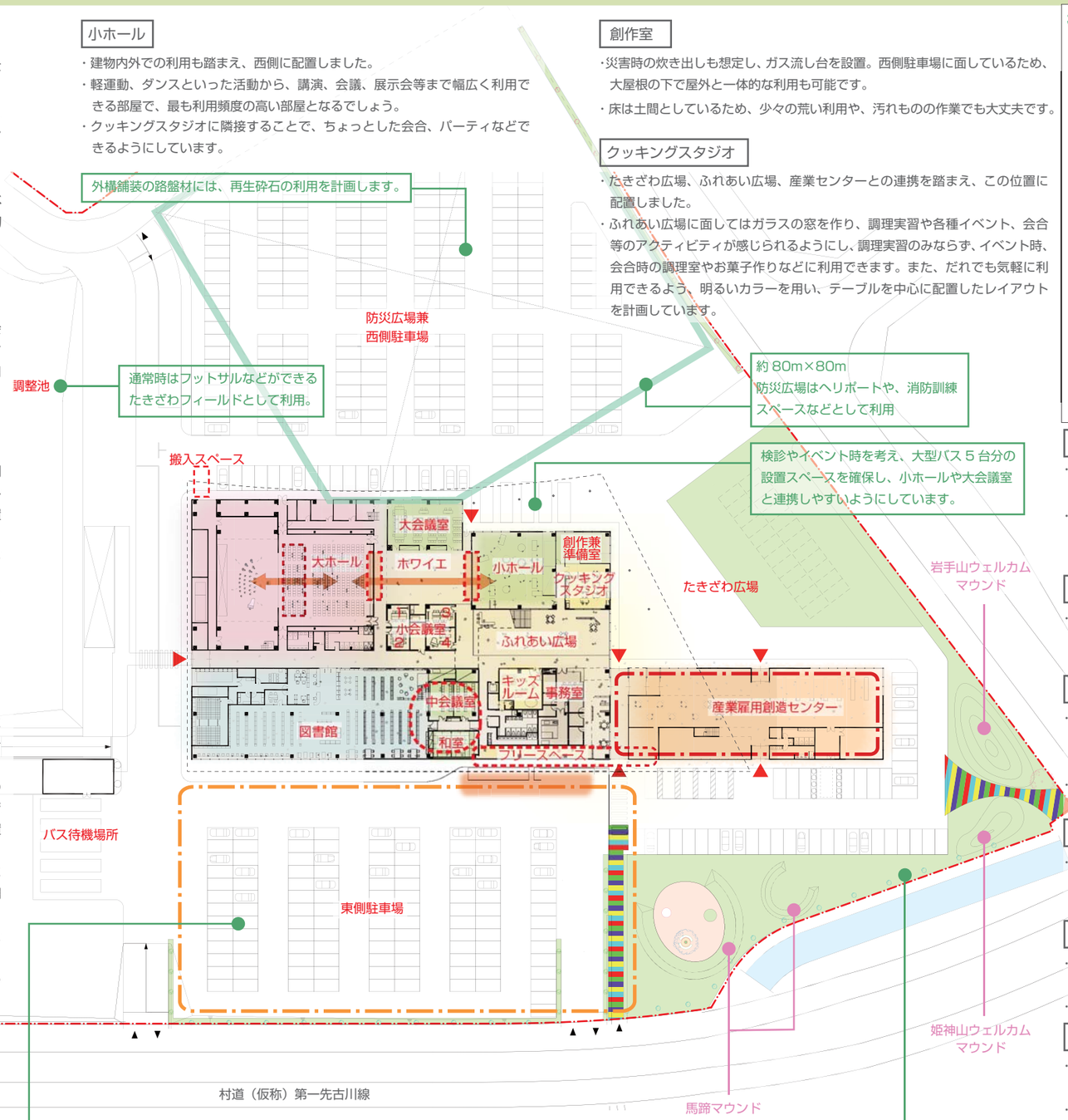
・建物内外での利用も踏まえ、西側に配置しました。
・軽運動、ダンスといった活動から、講演、会議、展示会等まで幅広く利用できる部屋で、最も利用頻度の高い部屋となるでしょう。
・クッキングスタジオに隣接することで、ちょっとした会合、パーティなどできるようにしています。

### 創作室

・災害時の炊き出しも想定し、ガス流し台を設置。西側駐車場に面しているため、大屋根の下で屋外と一体的な利用も可能です。
・床は土間としているため、少々の荒い利用や、汚れものの作業でも大丈夫です。

### クッキングスタジオ

・たきざわ広場、ふれあい広場、産業センターとの連携を踏まえ、この位置に配置しました。
・ふれあい広場に面してはガラスの窓を作り、調理実習や各種イベント、会合等のアクティビティが感じられるようにし、調理実習のみならず、イベント時、会合時の調理室やお菓子作りなどに利用できます。また、だれでも気軽に利用できるよう、明るいカラーを用い、テーブルを中心に配置したレイアウトを計画しています。



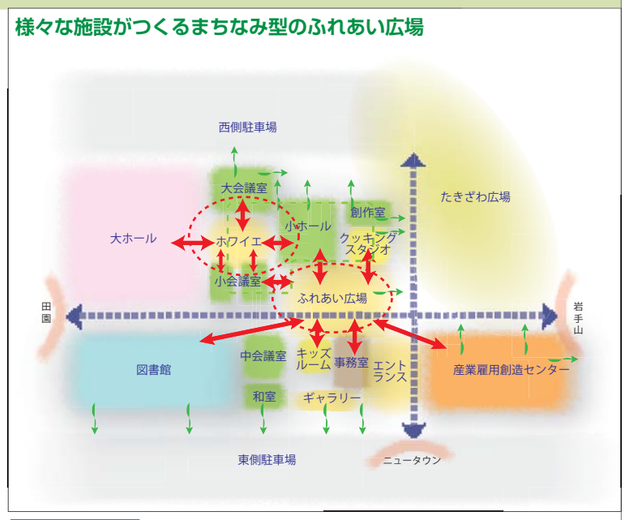

国土交通省で施行している復興支援道路（新川目トンネル）の残土を利用し、盛土を行うことで敷地全体から段差をなくしたフラットとし、バリアフリーに配慮しています。駐車場からもスロープなしでアクセスできます。

・見やすいサイン計画、トイレのブースの大きさを一部広げるなどの対応により、効果的にユニバーサルデザインの採用を行います。
・施設の中でも特に子供の利用が多いと思われるキッズルームを中心に、お子様連れでも安心の授乳室、子供専用トイレを配置しています。

滝沢村の季節を彩る植栽を配置し、「歳時記の景」を創ります。管理面に配慮し、水辺空間の新設は見送り、水路に面した親水空間とします。水路に面して馬蹄マウンドなどの滝沢村のアイデンティティをイメージする空間を創ります。

凡例：▼ 出入口

### 様々な施設がつくるまちなみ型のふれあい広場




### ふれあい広場

・大階段を設け、人の活動が外からも感じられる場としました。階段は、メイン通路のわかりやすい場所に配し、2階へのアクセスを行いやすくしました。
・図書館との連携により、新聞、雑誌を配架する方向であり、さらに喫茶スペースでお茶などを提供し、人が集まりやすく、みんなが自由にくつろげるたまり場をつくります。

### 市民活動支援センター

・自治会活動や NPO 団体など村の様々な活動を支援したり、各種団体の活動状況やサークル案内など人通りの最も多い面に配置し、来館者への情報発信や新たな発見、交流につなげます。

### フリースペース

・メインエントランスの顔の一角として、また、よく見える場所にフリースペースを設けました。ここは、みなさんの活動の成果を展示・閲覧したり、ちょっとした休憩ができるような空間です。
・奥まった静かな空間で、動線を区切れるような間取りとすることで、有料の個展などにも利用できます。

### 事務室

・メインエントランスを入ってすぐの分かりやすい位置とし、東西南北の十字の中心になる位置に配置し、来館者に分かりやすい施設にしています。また、事務室という名称よりはサービスセンターとして市民が気軽に声を掛ける雰囲気を目指します。

### キッズルーム

・ふれあい広場から中の様子が伺える位置とし、子供のエネルギーをみんなで共有するとともに、あたたかくその活動を見守る配慮としています。
・床暖房を導入する予定であり、子供達が存分に活動できるようにしています。

### 中会議室・和室

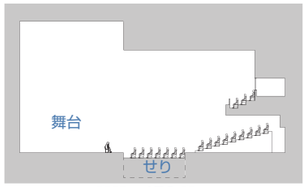
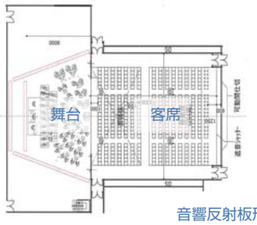
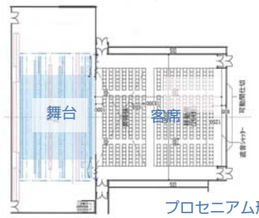
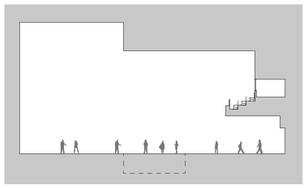
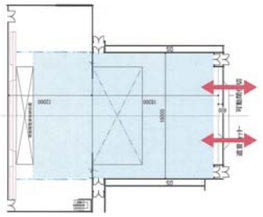
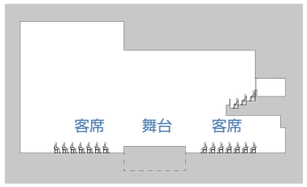
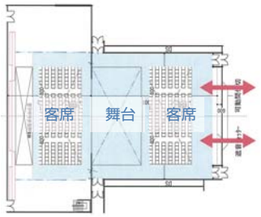
・中会議室と和室は上足で利用できる室とし、和室と一体的に利用したり、寝ころがったり、軽運動ができるようにしています。
・和室は着付けやお茶会等での利用はもとより、畳のもつ柔らかさ、ぬくもりなどからママ友の会などの利用もあるでしょう。また、中会議室と和室との間には、給湯設備も設置します。
・中会議室と和室を図書館のそばに配置し、子供たちに読み聞かせができる場をつくりました。
・中会議室は一室利用と共に2分割可能な利用も対応しています。

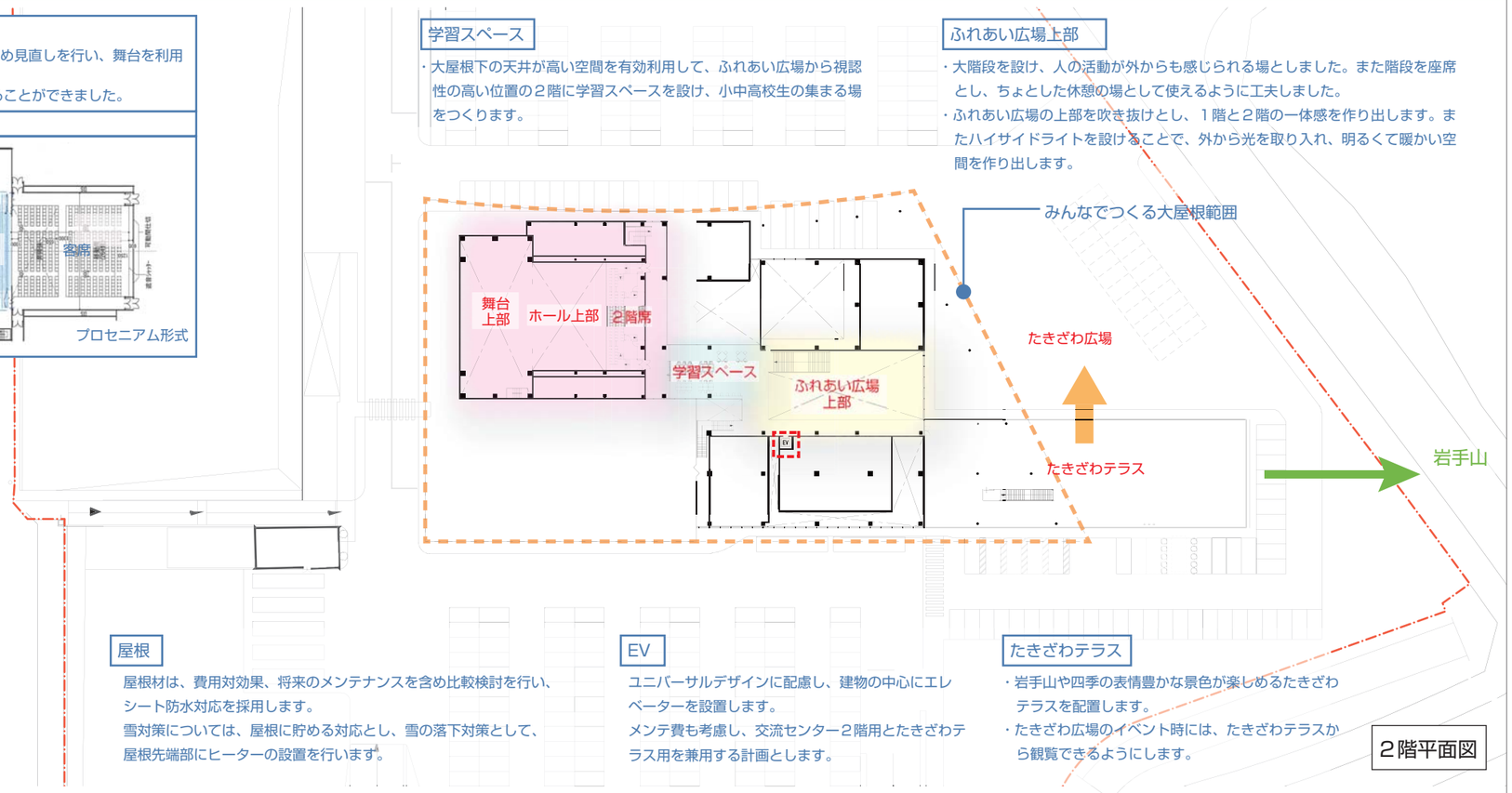
1 階平面図

## ふれあいを育てるしくみ

■大ホール

新たなホール形状の提案。基本計画時での 500 席、500 ㎡の平土間は、客席部分が間延びしてしまいバランスが悪いため見直しを行い、舞台を利用した平土間とすることで、バランスのとれたホール空間を創出することができました。
さらにこれにより客席を一部昇降床とし、最大 456 席のホールから 346 席のホールまで、多様なホール空間を創出することができました。

| | 断面 | 平面 | |
|---|---|---|---|
| 舞台利用時 |  客席：456 席 |  音響反射板形式 |  プロセニアム形式 |
| 平土間利用時 |  平土間：500 ㎡ |  | |
| 可動床舞台利用時 |  |  | |




### 学習スペース

・大屋根下の天井が高い空間を有効利用して、ふれあい広場から視認性の高い位置の２階に学習スペースを設け、小中高校生の集まる場をつくります。

### ふれあい広場上部

・大階段を設け、人の活動が外からも感じられる場としました。また階段を座席とし、ちょとした休憩の場として使えるように工夫しました。
・ふれあい広場の上部を吹き抜けとし、１階と２階の一体感を作り出します。またハイサイドライトを設けることで、外から光を取り入れ、明るくて暖かい空間を作り出します。

### 屋根

屋根材は、費用対効果、将来のメンテナンスを含め比較検討を行い、シート防水対応を採用します。
雪対策については、屋根に貯める対応とし、雪の落下対策として、屋根先端部にヒーターの設置を行います。

### EV

ユニバーサルデザインに配慮し、建物の中心にエレベーターを設置します。
メンテ費も考慮し、交流センター２階用とたきざわテラス用を兼用する計画とします。

### たきざわテラス

・岩手山や四季の表情豊かな景色が楽しめるたきざわテラスを配置します。
・たきざわ広場のイベント時には、たきざわテラスから観覧できるようにします。

２階平面図

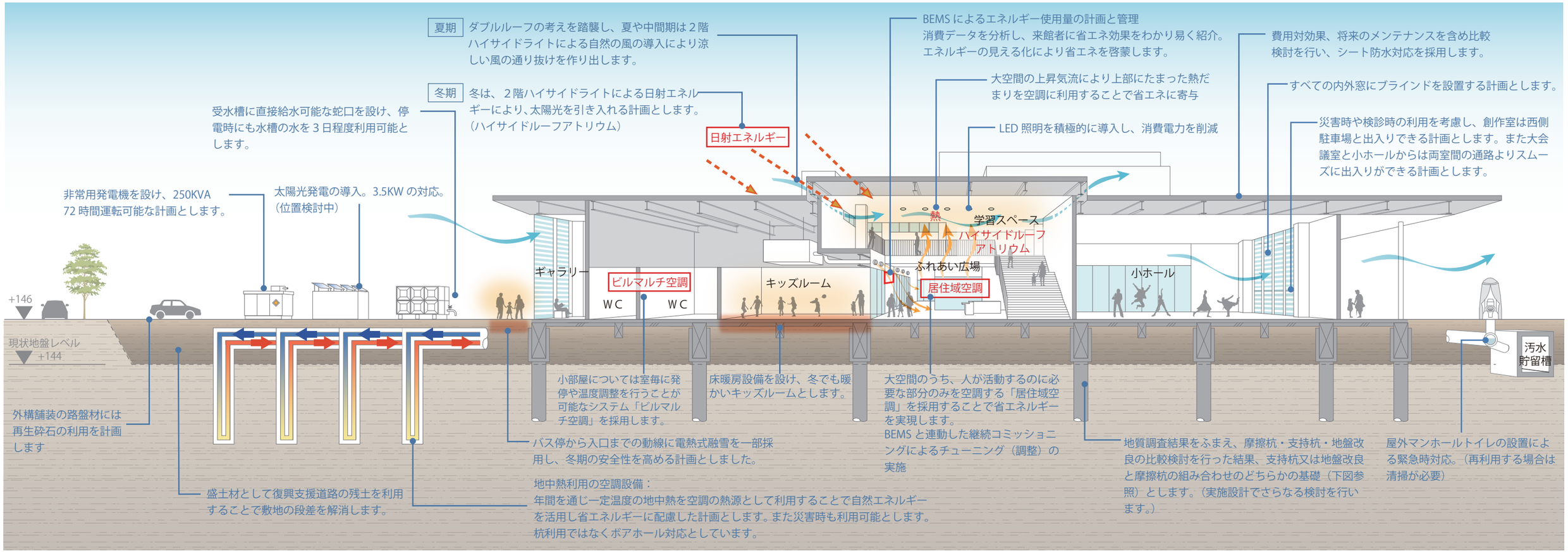
ふれあい広場　～　大階段・雑誌・喫茶コーナーイメージ

図書館　～　窓際の読書スペースイメージ

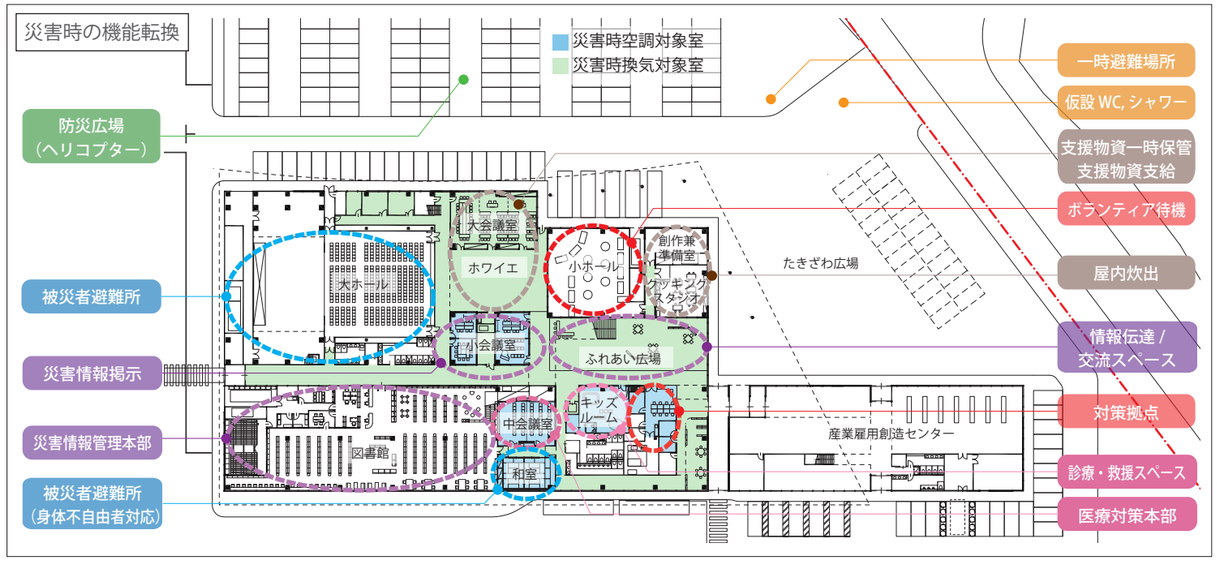
## 環境に与える影響を極力減らした、「自然や地球と暮らす施設」

・電力負担の平準化とエネルギーロスの削減を図ります。自然換気、外気冷房による負荷の削減＋地中熱利用設備＋共用部への LED 照明導入＋昼光利用による電力負担の平準化を行います。高効率機器の採用や全熱交換機によるエネルギーロス低減を行います。

・建築仕様、設備仕様の見直し等により、エネルギー削減 30%、ライフサイクルコスト 15% 削減の計画とします。




### 災害時の機能転換




### 構造・造成・外構防災計画

■構造計画：

・木材を構造材として利用する場合、法的（建築基準法）に、防火区画を施設内の多くの場所に設置する必要があり、空間の大きな制約や工事費増が見込まれることから、木材の構造材利用の採用を取り止め、鉄骨造に変更します。

・杭形式については、ボーリングデータを基に比較検討を行った結果、摩擦杭は不向きと判断、「支持杭」「地盤改良＋摩擦杭」「地盤改良のみ」の３形式の方向で進める事としました。実施設計において、詳細な解析を行うと共に、盛土による地盤の圧密沈下を考慮した杭の検討を行い、最適な工法を選択します。

■造成計画：

・当初は合理的な造成計画として、敷地内に段差を設ける計画としていましたが、盛土材として、国土交通省で施行している復興支援道路（新川目トンネル）の残土を利用することが可能となり、また敷地内の段差解消要請も受け、当初の段差提案は取り止め、敷地全体のレベル差をなくす計画に見直しました。

・同時に、段差を利用したアイスシェルターの提案については採用を見送ります。

・外構舗装の路盤材には、基準強度を満足した再生砕石を利用し、高い安全性を確保するとともに地球環境にも配慮します。

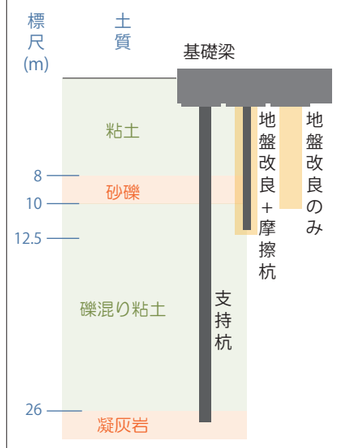
■外構防災計画：

・防災広場は、複合的防災拠点機能の中心。防災訓練の中心となる場で、ヘリコプターの離発着の活動が容易にできるよう計画します。

・調整池は自然の地盤レベルを利用し、コスト削減を目指すとともに広い面積を確保することで、貯留水深を抑え、軽スポーツ等が楽しめるたきざわフィールドとして整備します。またヘリコプターの離発着の活動が可能なよう計画します。

・雨水利用設備の導入については、建設費用、将来の維持費用と水道利用運用費用を比較検討した結果、費用対効果が認められないことから、採用を見送ります。

・防災井戸設備の設置については、井戸の深さがかなり深いことが想定され、費用対効果が見込めないことから、採用を見送ります。非常時は、受水槽に直接給水可能な蛇口を設置し、 停電時にも受水槽貯留分は直接水栓から上水利用を可能とします。

### 基礎の検討

地盤調査結果